

—国語先生対象—

新大学入学テストについての意識と対策

アンケート結果(概略)

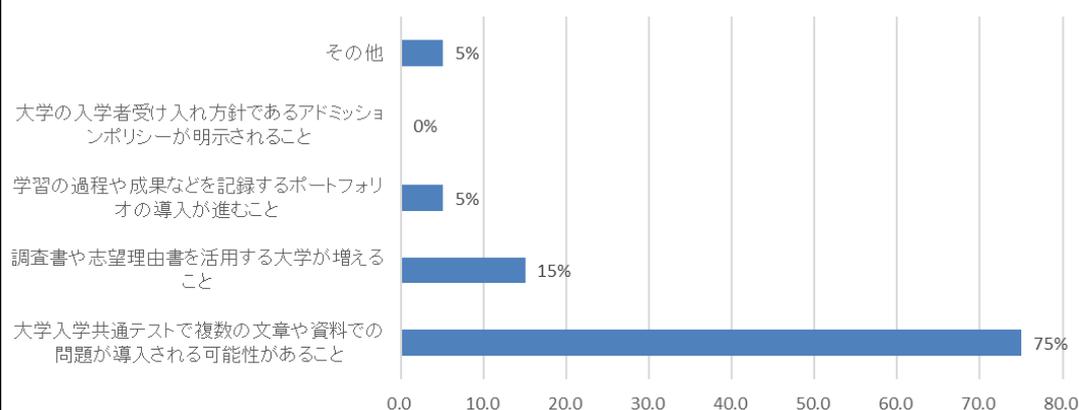
- 実施期間：2020年1月～3月
- 実施主体：いっずな書店モニター室
- アンケート項目数：40問（選択項目28問、記述項目12問）
- 回答方法：ウェブアンケートツール クエストアント
- アクセス数：63
- 回答数：20
- 回答デバイス：スマホ35%、タブレット10%、PC55%、その他0%

■文部科学省による大学入試改革について最も関心があるのは「大学入学共通テストで複数の文章や資料での問題が導入される可能性があること」

文部科学省が進める大学入試改革について先生方はどのように受け止めているのか。いっずな書店モニター室が今年1月～3月に国語の先生（回答数20名）に「文科省による大学入試改革について最も関心があることは何か」（選択肢型）を聞いたところ、最も多いのが「大学入学共通テストで複数の文章や資料での問題が導入される可能性がある（75%）」であることがわかった。大学入学共通テストでの「複数の文章や資料の問題の導入」に大きな関心が寄せられていることがうかがえる。

次に、「それを選んだ理由」（記述型）を聞いたところ、「現行の教科書では、複数の文章の読み比べをほぼ指導していないにも関わらず、1年もない期間で準備をしなければならない。従来の指導に加えて、共通テストの指導は負担が大きいと感じている」「生徒の負担や、指導方法に最も影響があるから」といった「指導」に関するコメントのほか、「新たな傾向の問題が出題されるため、その対策のために様々な方策をとらなければならないため」「教科書に対応した形式ではないため、対策の必要を感じているから」「模試等の対策に興味があるから」「複数文章の読み比べの生徒への対応を最優先で考えなければならないから」といった「対策」「対応」に関するコメントが見られた。

[Q1]2019年12月17日に大学入学共通テスト「記述式問題」の延期が決まりましたが、文科省による大学入試改革について最も関心があることは何ですか。下記より一つお選びください。(n=20)



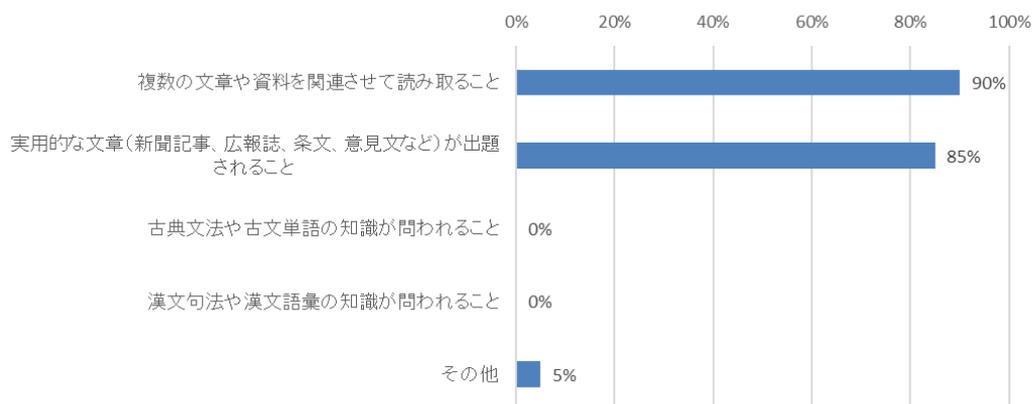
■2020年度から実施される「大学入学共通テスト」試行調査問題を見たことがある先生方は全員で、その試行調査で印象に残った特徴は「複数の文章や資料を関連させて読み取ること」と「実用的な文章（新聞記事、広報誌、条文、意見文など）が出題されること」

さらに、「2020年度から実施される「大学入学共通テスト〈国語〉」の試行調査問題を見たことはあるか」（選択肢型）を聞いたところ、全員の方が「ある」と答えた。次に「それを見て印象に残った特徴はどれか」（選択肢複数選択型）を聞いたところ、「複数の文章や資料を関連させて読み取ること（90%）」が最も多く、次いで「実用的な文章（新聞記事、広報誌、条文、意見文など）が出題されること（85%）」が多かった。「複数の文章や資料」「実用的な文章」が非常に印象に残ったことがうかがえる。

次に、「それを選んだ理由」（記述型）を聞いたところ、「複数の文章や資料を関連させて読み取ること（90%）」では「現代文、古典ともに文章を比較し、詳細をよく読解しないと対応できないため、生徒にその力を身に付けさせなければと感じているため」「複数テキストを関連づけて読み取る力や大量の情報をすばやく処理する力が要求されているという印象が強かったから」「文章の量も多く、従来の読解の指導だけでは対策は不十分である。共通テストに向けた対策を、従来の指導に加えて行う必要性を実感したから」「複数資料の比較は、グループ活動では指導したことがあったが、入試を意識した指導はしてこなかったから」「複数テキスト（実用的文章を含む）は、適切に利用すればより深い国語力を測るに資するものだから」といったコメントが見られた。

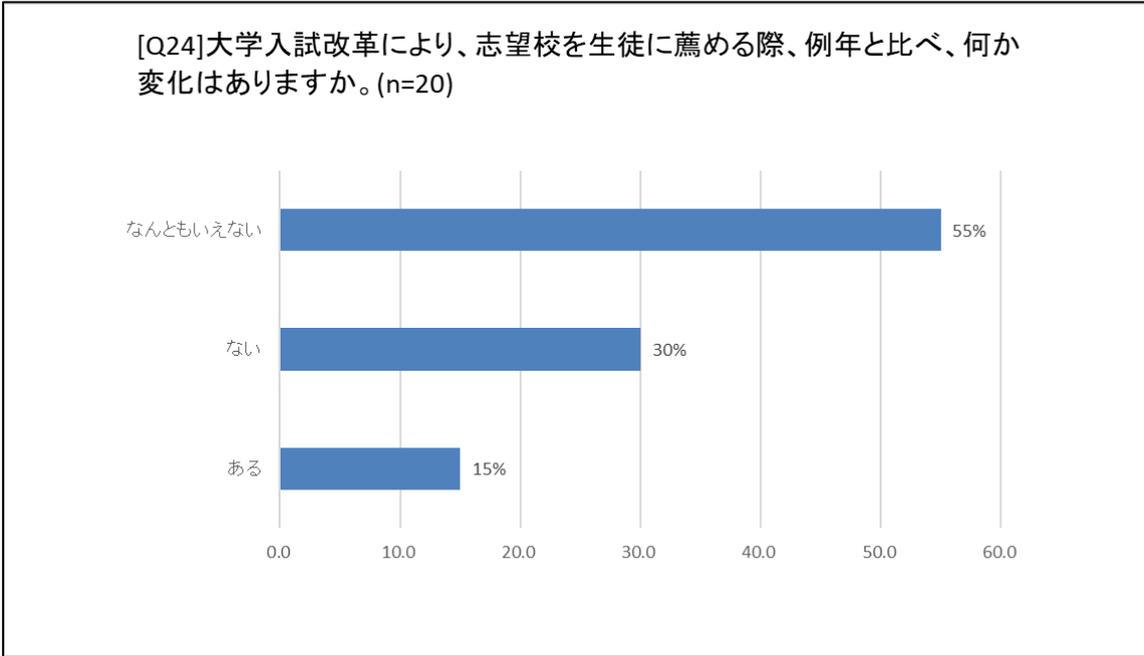
また、「実用的な文章（新聞記事、広報誌、条文、意見文など）が出題されること（85%）」では「条例など実用的な文章はほとんど扱ったことがないから」「社会的な教科の内容が重視されていると思ったから」といったコメントがある一方、「現場での学習内容との差異が気になるから」「試行問題のような文章で、本当の国語力がはかれるかに疑問を感じたから」「資料や法律の条文から必要な情報を集めるのは、「国語」の力ではないと考えたから」といったコメントも見られた。

[Q6]Q5で「ある」と答えた方に質問します。それを見て印象に残った特徴はどれですか。下記よりお選びください（複数可）。(n=20)



■志望校を生徒に薦める際、大学入試改革による変化の有無について「なんともいえない」が5割以上

さらに、「大学入試改革により、志望校を生徒に薦める際、例年と比べ、何か変化はありますか」(選択肢型)を聞いたところ、最も多いのが「なんともいえない(55%)」で5割以上に上った。次に、「ある(15%)」と答えた先生方に「その理由」(記述型)を聞いたところ、「合格を確保する私立大学を多めに、かつレベルに幅を持たせる」「私立型(3教科型)の生徒に公立大学を勧めにくくなった」などがあった。志望校を生徒に薦める際、大学入試改革による変化の有無が少なからずあると考えていることがうかがえる。

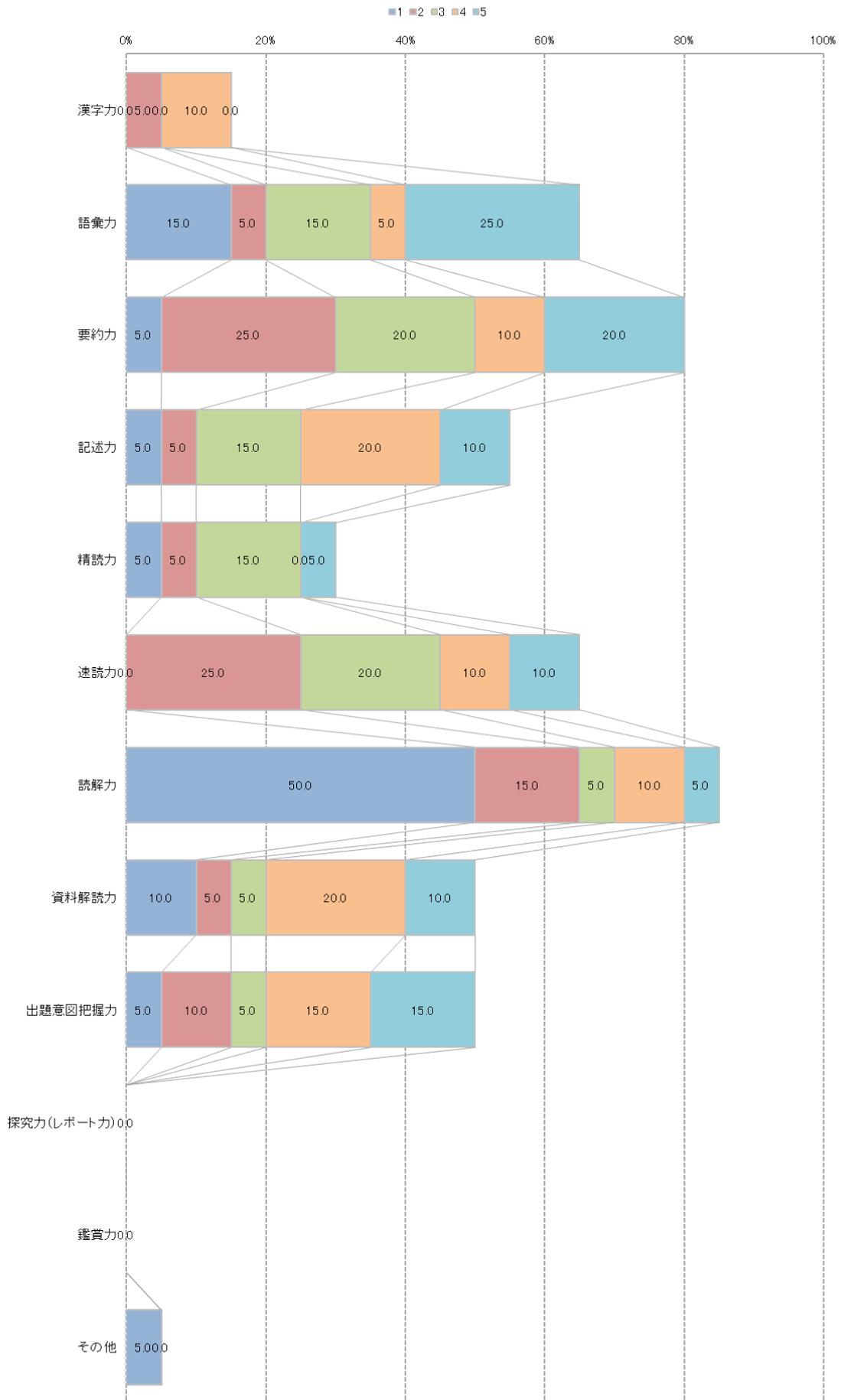


■大学入試改革による新大学入学テスト〈現代文〉対策として、生徒に力を付けさせる必要があると考える第1位は「読解力」

さらに、「大学入試改革による新大学入学テスト〈現代文〉対策として、生徒にどのような力を付けさせる必要があると思いますか」(選択肢順番型)を聞いたところ、第1位として最も多かったのが「読解力(50%)」、次いで「語彙力(15%)」が続いた。第2位として最も多かったのが「要約力(25%)」「速読力(25%)」、次いで「出題意図把握力(10%)」が続いた。第3位として最も多かったのが「要約力(20%)」「速読力(20%)」、次いで「語彙力(15%)」「記述力(15%)」「精読力(15%)」が続いた。また、第1位～第5位までのパーセンテージ総計で、最も多いのが「読解力(85%)」、次いで「要約力(80%)」が続き、「語彙力(65%)」が続いた。以上より「読解力」「語彙力」「要約力」をメインに、さらに「記述力」「速読力」を付けさせる必要があると考えていることがわかる。

当アンケートでは、新大学入学テストについての「自由記入欄」も用意したが、「基礎基本。特に言語力を確認できるような設問も必要。年々、基礎基本ともいえる言語力(語彙力から読解力まで)が弱くなっているから」といった「読解力」「語彙力」に関するコメントが見られた。また、「共通テストでの記述問題は延期になったが、今後導入されるとすれば、共通テストレベルの記述と、個別試験レベルの記述をどう指導していくかは大きな課題である」といった「記述力」に関するコメント、「調査問題等を見ると、現代文も古典もよりスピードを上げて解く必要がある」といった「速読力」に関するコメントが見られた。

[Q32]大学入試改革による新大学入学テスト(現代文)対策として、生徒にどのような力を付けさせる必要があると思いますか。下記よりお選びいただき、重要なものから順番に1~5をつけてください。(n=20)



■大学入試改革による新大学入学テスト〈古文〉対策、〈漢文〉対策として、生徒に力を付けさせる必要があると考える第1位は〈古文〉が「古文単語力」、〈漢文〉が「漢文句法力」

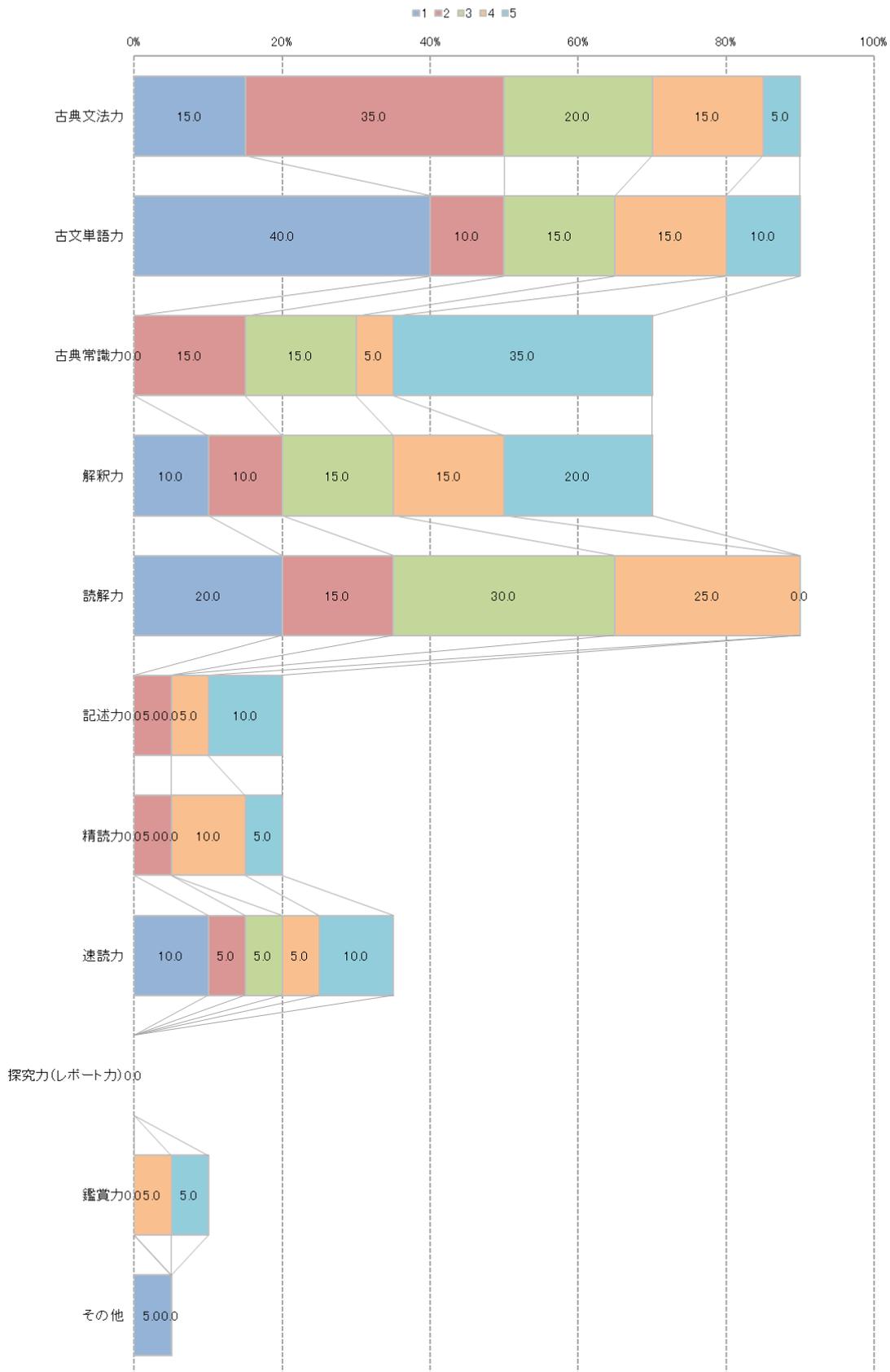
さらに、「大学入試改革による新大学入学テスト〈古文〉対策として、生徒にどのような力を付けさせる必要があると思いますか」（選択肢順番型）を聞いたところ、第1位として最も多かったのが「古文単語力（40%）」、次いで「読解力（20%）」が続いた。第2位として最も多かったのが「古典文法力（35%）」、次いで「読解力（15%）」「古典常識力（15%）」が続いた。第3位として最も多かったのが「読解力（30%）」、次いで「古典文法力（20%）」が続いた。また、第1位～第5位までのパーセンテージ総計で、最も多いのが「古典文法力（90%）」「古文単語力（90%）」「読解力（90%）」であった。以上より「古典文法力」「古文単語力」「読解力」メインに「古典常識力」を付けさせる必要があると考えていることがわかる。

さらに、「大学入試改革による新大学入学テスト〈漢文〉対策として、生徒にどのような力を付けさせる必要があると思いますか」（選択肢順番型）を聞いたところ、第1位として最も多かったのが「漢文句法力（40%）」、次いで「読解力（20%）」が続いた。第2位として最も多かったのが「漢文句法力（30%）」「漢文語彙力（30%）」、次いで「読解力（20%）」が続いた。第3位として最も多かったのが「漢文語彙力（20%）」「解釈力（20%）」、次いで「漢文句法力（15%）」「読解力（15%）」「速読力（15%）」が続いた。また、第1位～第5位までのパーセンテージ総計で、最も多いのが「漢文句法力（100%）」、次いで「漢文語彙力（95%）」が続き、「読解力（85%）」が続いた。以上より「漢文句法力」「漢文語彙力」「読解力」メインに「解釈力」「速読力」を付けさせる必要があると考えていることがわかる。

当アンケートでは、新大学入学テストに関するさまざまな「記述記入欄」も用意したが、「古文漢文に関しては特に大きな変化はない」「古典領域に関しては知識理解、内容読解の次元では旧来のセンターよりも易いと感じたから」といった「変化なし」「易化」ととらえるコメントが見られた一方、「古典はマーク式だが、複数の文章を読み合わせたりするなど、傾向に変化が見られそう」「現代文、古典ともに文章を比較し、詳細をよく読解しないと対応できない」「調査問題等を見ると、現代文も古典もよりスピードを上げて解く必要があるように感じる」といった「変化あり」「難化」ととらえるコメントが見られた。

（下に続く）

[Q33]大学入試改革による新大学入学テスト〈古文〉対策として、生徒にどのような力を付けさせる必要があると思いますか。下記よりお選びいただき、重要なものから順番に1～5をつけてください。(n=20)



[Q34]大学入試改革による新大学入学テスト(漢文)対策として、生徒にどのような力を付けさせる必要があると思いますか。下記よりお選びいただき、重要なものから順番に1~5をつけてください。(n=20)



■大学入試改革による新大学入学テスト対策として指導が必要であるとする第1位は「思考力・判断力・表現力が養成される指導」

上記と関連して、さらに、「大学入試改革による新大学入学テスト対策として、どのような指導が必要だと思いますか」（選択肢順番型）を聞いたところ、第1位として最も多かったのが「思考力・判断力・表現力が養成される指導（70%）」、次いで「大学入学共通テストで高得点が取れるような指導（20.0%）」が続いた。第2位として最も多かったのが「大学入学共通テストで高得点が取れるような指導（40%）」、次いで「アクティブラーニング型の指導（15%）」「学校の定期試験で高得点が取れるような指導（15%）」が続いた。第3位として最も多かったのが「大学入学共通テストで高得点が取れるような指導（30%）」、次いで「アクティブラーニング型の指導（20%）」「学校の定期試験で高得点が取れるような指導（20%）」が続いた。

また、第1位～第5位までのパーセンテージ総計で、最も多いのが「思考力・判断力・表現力が養成される指導（100%）」、次いで「大学入学共通テストで高得点が取れるような指導（95%）」が続いた。

以上より「思考・判断・表現力の養成」「アクティブラーニング」といった学力養成の根幹に関わる指導と「大学入学共通テスト対策」「定期試験対策」といった知識・技能に関わる指導を重視していることがうかがえる。

当アンケートでは、新大学入学テストについての「自由記入欄」も用意したが、「未だ全容が見えない中、非常に不安だが、基本的に授業を第一にしていく姿勢を変える必要は無いと考えている」「基礎的力を養いながら、動向を見守るしかない」といった「学力養成の根幹」を重視するコメントが見られた。

また、同記入欄では「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導時間が示され、それぞれにおいて有効な指導をするためには、関連資料の数と種類を増やさなければならない」「現段階の発表では、共通テストに向けて戦略的な準備を行うことが至難である。生徒が十分に準備して本番に望めるよう、適切な情報開示を速やかに行ってほしい」「どの学校でも生徒には様々な学力の幅がある。その指導に対応する必要がある」といった「(国語)知識・技能」およびそれに関する「情報」についてのコメントも見られた。

(下に続く)

[Q35]大学入試改革による新大学入学テスト対策として、どのような指導が必要だと思いますか。下記よりお選びいただき、重要と思うものから順番に1～5をつけてください。(n=20)

